

第5章 名詞と決定詞

(1) 決定詞——名詞の方向性を示す単語

日本語には冠詞がありません。日本語では、名詞の前に何も付けないでも使うことができます。

Part 1の冒頭でも触れましたが、筆者の子供が中学校に入ったときに、英語について言っていた感想は、なかなか本質をついています。(少し略して再掲します)

「お父さん、英語と日本語ってずいぶん違うよね。日本語の『本』は、そのまま文の中で使えるけれども、英語の『book』は、そのままじゃ使えないものね」

なるほど、「本」という単語は、「私は本をもっている」みたいに、そのまま文の中に入れて使うことができますが、bookはそのままでは使うことができません。bookにaを付けるなり、booksと複数形にするなりしないと、文の中では使えません。

英語圏で育った人たちに聞くと、子供のころに学校で「この単語は裸ですよ」という注意を受けたことがあるそうです。「裸」とは、名詞の前にa, the, myといったような単語が付いていないことを指します。

筆者の子供が言っていたのも、このことなのです。英語の名詞には、何かその名詞の方向性を示す単語、いわば矢印みたいなものを付けないといけないのです。日本語のように、ぶっきらぼうにいきなり「本」(漠然としていますね)と話題に出すのではなく、単語の前に、「その単語が話し手にとってどのような単語なのか」を示す矢印(↓→↑←)のようなもの(単語)を付けるのです。

これを、英文法では“determiner”と呼びます。私たちを悩ますaとtheも、determinerの仲間です。

determinerは「限定詞」とか「決定詞」と訳されます。辞書には「冠詞、指示代名詞・代名詞および名詞の所有格など」と書いてあります。略号はdet.です。英英辞典を引いたときに、この記号が付いている単語がdeterminerです。determinerは、determine「決定する」という動詞から派生した単語です。

本書では、determinerを「名詞の方向性を決める」という意味で、「決定詞」と呼ぶことにします。

「決定詞」という言葉は、学校ではあまり教えません。筆者が高校生だった頃には、「決定詞」という言葉は教わりませんでした。でも、「名詞には決定詞を付けて使う」ということを意識することは、英語を使いこなす上でとても大切なことであり、aとtheの使い方をマスターするためにも、欠かすことはできません。

私たちがふだん使っている日本語では、名詞に決定詞を付けません。例を出してみましょう。

「仕事に行くときに、あわてていたので、書類の入った封筒を電車の中に置き忘れてしまった」

この文で、「仕事」、「書類」、「封筒」、「電車」には「この(this)」とか「私の(my)」とか、英語の決定詞にあたる単語は付いていません。

一方、英語では、名詞に決定詞が付いているのが当たり前ののです。ために、本棚から英語の本を取り出して、それを確かめてみました。“My Father’s Dragon”(Ruth Stiles Gannett)という本です。